

予防接種を受けに行く前に

(1) 一般的注意

予防接種は、体調のよい時に受けるのが原則です。日ごろから保護者の皆さまはお子さまの体質、体調など健康状態によく気を配ってください。そして何か気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけの医師や保健所・保健センターにご相談ください。

以下の注意を守って、安全に予防接種を受けられるよう、保護者の皆さまもご協力ください。

- ① 受ける予定の予防接種について、「東大阪市予防接種手帳」や市ウェブサイトをよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは接種を受ける前に質問しましょう。
- ② 受ける前日は入浴（又はシャワー）をし、体を清潔にしましょう。
- ③ 当日は朝からお子さまの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認しましょう。予防接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種するかどうか判断しましょう。
- ④ 接種を受けるお子さまの日ごろの健康状態をよく知っている保護者の方が連れていきましょう。
- ⑤ 予診票は接種をする医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。すこやか番号も忘れずご記入ください。
- ⑥ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。

なお、予防接種は、効果や副反応などについてよく理解した上で、接種を受けることが大切です。

(2) 予防接種を受けることが出来ない人

- ① 明らかに発熱をしている人
一般的に、医療機関等で測定した体温が 37.5℃以上の場合をさします。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
急性で重症な病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化もわかりませんので、その日は接種を受けないのが原則です。
- ③ その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシー※¹をおこしたことが明らかな人
- ④ BCG接種においては予防接種、外傷などによるケロイドが認められる人
- ⑤ B 型肝炎の予防接種の対象者で、母子感染予防として、出生後に B 型肝炎ワクチンの予防接種を受けた人
- ⑥ ロタウイルスワクチンの接種においては、腸重積症の既往のある人、腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管障害にかかっている人（治療が完了した子どもを除く）、重症複合免疫不全症の所見が認められる人
- ⑦ 病気が治ってから一定の間隔があいていない人（ただし、これらについては、医師と相談してください。医師が状況を確認し、接種できるかできないか判断します。）
 - ・麻しん（はしか）が治ってから 4 週間程度
 - ・風しん、おたふくかぜ、水痘（水ぼうそう）が治ってから 2～4 週間程度
 - ・その他のウイルス性疾患（突発性発疹、伝染性紅斑病、手足口病、感染性胃腸炎、インフル

エンザ、ヘルパンギーナ、咽頭結膜炎など）が治ってから1～2週間程度

なお、①から⑦に当てはまらなくても医師が接種不適当と判断したときは、予防接種を受けることはできません。

- ※1 「アナフィラキシー」というのは通常接種後約30分以内におこる重いアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるようなはげしい全身反応のことです。

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、主治医がいる場合には必ず前もって診てもらい、その主治医のところで、接種してもらうか、あるいは主治医に母子健康手帳の予防接種のページにある意見記入欄に接種可能であることを記入してもらってから接種に行きましょう。

- ① 今までにけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人
けいれんの種類によって、気をつけることが違います。前もってかかりつけ医師と事前にご相談ください。
- ② 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育について治療や指導を受けている人、輸血やガンマグロブリン製剤投与を受けた人
- ③ 前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- ④ ワクチンに含まれる成分にアレルギーがあるといわれたことがある人
ワクチンにはその製造における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っています
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされた人および近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- ⑥ BCGの接種においては、家族に結核患者がいて長期に接触があった場合など、過去に結核に感染している疑いのある人
- ⑦ ロタウイルスワクチンの予防接種においては、活動性胃腸疾患や下痢等の胃腸障害のある人
- ⑧ 家族、友達またはクラスメートの間に麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気が流行している時で、まだ、その病気にかかったことのない人

(4) 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- ① 予防接種を受けたあと30分間は、医療機関等でお子さまの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
急な副反応はこの間におこることがあります。
- ② 接種後、生ワクチンは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔を保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④ 接種当日はげしい運動はさけましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。